

平成 21 年度 第 2 回 利尻山 登山 利用 検討 会 について の アンケート 結果

1. 「利尻山 時速 可能な 登山 憲章 (案)」 の 表現 ・ 内容 について

※ 「利尻山 登山 利用 の あり 方」 に関する 本 検討 会 検討 員 の 統一 見解 と する こと に 相違 が ない か を 確認 します。

1. 「利尻山 持続 可能な 登山 憲章 (案)」 の 表現 や 内容 について、お考え が あれば 回答 欄 に ご 記入 ください。

利尻山 持続 可能な 登山 憲章 (案)

「利尻山は、厳しい気象や壊れやすい自然環境に特徴がある山です。将来にわたって自然環境を持続的に利用するために、安全で自然に配慮した登山の実践と対策を行います。」

- 一 利尻山の登山者は、厳しい自然環境と荒廃する登山道の現状を理解し、自己責任で、環境に配慮した登山を行います。
- 一 利尻山では、登山の利便性よりも、脆弱な自然環境の保全を優先した整備と管理を、関係機関の協力のもとすすめます。
- 一 利尻山の登山利用のあり方、登山道とその周辺の整備においては、島民や登山者の意見を聞きながら、関係する様々な人々が相談・協力しながらその対策をすすめていきます。

※ 各項目の主体がより明確になるように、修正してみました。(大項目に変更なし)

- 一 利尻山の登山者は、厳しい自然環境と荒廃する登山道の現状を理解し、自己責任で、環境に配慮した登山を行います。
- 一 **利尻山の管理に係わる関係機関は**、登山の利便性よりも、脆弱な自然環境の保全を優先して、登山道の整備と管理を協力してすすめます。
- 一 **島民、登山者、関係する人々は**、利尻山の登山利用のあり方、登山道とその周辺の整備について、様々な意見を聞きながら、相談・協力しながら対策をすすめます。

小項目は自然環境の保全を優先すると謳っており、それが本憲章の一番大切な点と思われま
す。名称・前文における「安全」「持続」の言葉は、利用優先のニュアンスが付きまとうため思い切
って削除したほか、守ることを優先する理由も追加しました。小項目に変更はありません。

利尻山登山憲章

「利尻山は、我が国最北の独立峰として独特の自然環境を有しますが、厳しい気候や崩れやす
い火山体などの理由からそれらは急速に失われつつあります。将来にわたってこのかけがえの
ない自然環境を守り、次の世代へと受け渡すことができるよう、自然に配慮した登山と対策を
行う以下の憲章を定めます。」

-
- ・特に大きな意見の相違はありません。
 - ・対象によって、その内容を分りやすく伝えるようにする・・・という事だったので、まあ、基本
であればそのままでもいい気もしますし・・・。

「利尻山は、厳しい気象や壊れやすい自然環境に特徴がある**貴重な山**です。**我々はこの山を後世
に伝えるために、安全で自然に配慮した登山の実践と対策を行います。**」

登山者は 一、厳しい自然環境を理解し、すべて自己責任により登山を行います。
一、荒廃する登山道や植生の現状を理解し、自然環境に配慮した登山を行います。

管理者は 一、各関係機関の協力のもと、脆弱な自然環境の保全を優先した整備と管理を行いま
す。
一、登山道とその周辺の整備は島民や登山者の意見を聞き、相談・協力をしながら対
策を進めていきます。

以上のように表現を変えてみました。

憲章のとおり利尻山を目指すにあたり登山者は何をするのか、管理者は何をするのか、とい
うふうにしてそれぞれの項目を挙げていく形ではどうでしょうか。

内容については、自然環境への配慮した内容となっており賛成です。ただ、私個人の意見として
は、すでに議論つくされた結果とは思いますが、「登山憲章」という名前が、少し重すぎないか
な。という思いが残ります。

住民や全国からの登山者にすんなり受け入れていただけるといいのですが。反対というわけ
ではなく、受け入れていただけるような取り組みをしていかないとだめだと思っています。